

# 子どもと青年の育ちの支援 2単位

担当教員: 木村 隆夫

思春期・青年期の子どもとの対応は、「子育て」から「子育て支援」への転換がキーワード

## 講義目的・到達目標

### 思春期・青年期の子どもや青年たちとの向き合い方を考える

思春期、青年期になった子どもや青年は、無限の発達の可能性を持つと共に、成長発達の過程でさまざまな困難に直面し、時には、不登校、非行、思春期障害などの問題が生じる場合もある。

思春期・青年期の子どもや青年との向き合いは、「子育て」という視点から、「子育ての支援」という視点に切り替えなければならないが、多くの親たちは、世間の評価を気にするあまりいつまでも過度に子どもに関わり、子どもの挑戦しようという意欲を押さえ、結果として自立を妨げていることが少なくない。そこで、この授業では、非行やひきこもりを体験し回復を実現した青年たちの生の声を聴くなど、様々な角度から子どもや青年の「育ちの支援」について考えてみたい。

## 講義の構成

### 講義の流れ

- 1.担当教員による講義 ①「子育てと子育ての条件」、②「非行・不登校・ひきこもりなどの問題行動の原因背景」、③「家庭、家族支援の方法」
- 2.担当教員による心を通わせる体験、①「子どもと心を通わせる会話法」体験、②「ものの見方、考え方を変える枠組み転換法」体験
- 3.ゲスト講師による体験報告、①教師の立場から、②ひきこもり克服体験者の立場から、③非行・犯罪克服体験者の立場から
- 4.ゲスト講師によるパネルディスカッション「子どもと青年の育ちの支援を考える」

1 講義で、子育て支援のあり方を考える

2 ワークショップによる「会話法」「枠組み転換法」体験

3 ゲスト講師の体験報告から学ぶ

4 パネルディスカッションで「子育て支援」のあり方を再確認する

5 最終レポート

### 講義のポイント

- 1.「心を通わせる体験」は、ワークショップ方式で行う。「枠組み転換法」とは、一見否定的に見える性格や行為を、角度を変えて肯定的に見ることを体験し、見方や考え方の枠を広げる心理技法である。
- 2.ゲスト講師には、長年にわたって子どもの心をつかみ、教育を行ってきた元教師と、ひきこもりや非行を体験し、それを克服して成長してきた2人の青年を予定している。
- 3.パネルディスカッションは、受講生各位の質問・意見に、各パネラーが答えるという方式で進行する。

## 受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ
 

②の参考図書のうち、できれば、柏木の著書と木村、竹中、高垣の著書のなかで、関心がある書籍を最低1冊、計2冊読んで参加して欲しい。柏木は現在の子育ての問題点として「先回り育児」の弊害について論じている。木村は、青少年の非行について、竹中は引きこもりについて、高垣は不登校について論じている。
- ②参考図書
 

柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書  
木村隆夫『非行をのりこえる』子どもの未来社  
竹中哲夫『ひきこもり支援論』明石書店  
高垣忠一郎『揺れつもどりつ思春期の峠』新日本出版社
- ③評価基準
 

授業中の熱意と試験に代わる最終レポートで評価する。
- ④より学びを深めるために
 

参考図書を熟読することが基本。